

# 社会起業家という生き方

## ～ ビジネスで社会問題の解決を目指す ～

関西学院大学人間福祉学部

武田 文 教授

1964 年生まれ。関西学院大学社会学部部卒、同大学院修士課程修了後、米テネシー大学に留学。アメリカやインドで研究員として勤務した後、関西学院大学社会学部講師に就任。2004 年、准教授。2008 年、人間福祉学部誕生と同時に、社会起業学科准教授。10 年より教授。国際・多文化ソーシャルワークの領域で実践家と研究者の両立を目指している。

「社会起業家」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか？ 日本では5年ほど前から注目されるようになった言葉で、ビジネスの手法を用いて、さまざまな社会問題の解決を図っている人たちを指します。介護や看護、貧困……そうした問題は、行政だけではなかなか対処しきれません。また、ボランティアの力に頼っていたのでは質の高いサービスを提供、維持することが難しいのが実情です。そこで、登場したのが「社会の変革者」「チェンジメーカー」とも呼ばれている社会起業家という人たち。果たして、社会起業家とはどのような人たちなのでしょう？ 日本で活躍する社会起業家の実例もまじえながら、社会起業家の“姿”に迫ります。

- 第1章 世界が抱えるさまざまな問題
- 第2章 社会起業家とはどんな人たちか？
- 第3章 日本の社会起業家たち
- 第4章 私たちも社会を変えることができる！

## **第1部 世界が抱えるさまざまな問題**

私たちの周りにはどのような社会問題があるのか　まずは、それを見ていきます。多くの社会起業家と呼ばれる人たちが、その解決に取り組んでいるわけですが、世界には実にさまざまな克服すべき問題があります。なかには普段、あまり意識していないけれども、私たちの生活に密接にかかわっている問題もあるのです（たとえば、南北問題など）。

## **第2部 社会起業家とはどんな人たちか？**

第1章で見たさまざまな社会問題に立ち向かう社会起業家は、3つの要素を兼ね備える必要があるといます。まずは、何を解決するのかという「社会性」、次に収益が出るかどうかという「事業性」。そして最後に、商品やサービス、仕組みなどの「革新性です」。とくに最後の革新性が重要。ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のユヌス総裁などは、この革新性が評価されたのでした。その他、社会起業家が手がけるソーシャル・ビジネスの実例を見ていきます。

## **第3部 日本の社会起業家たち**

この章のテーマは日本で活躍する社会起業家たちです。1人は、アジア最貧国で、その国に適した商品を開発・販売する女性。さらに、四国の山間の地で地域のお年寄りの収入源となるビジネスを展開している男性も登場します。その他、いろいろな人たちがさまざまな分野で活躍しています。

## **第4部 私たちも社会を変えることができる！**

最終章は、日本における問題点と、この講義を聞いて「社会起業家」に興味を持った人へのアドバイス。何よりも重要なのは志で、「何を解決するのか」というミッションをしっかりと持たないといけません。またこの章では、関西学院の学生の活動例なども紹介されています。こういう志の高い、若い人たちが活躍する社会が待ち望まれます。